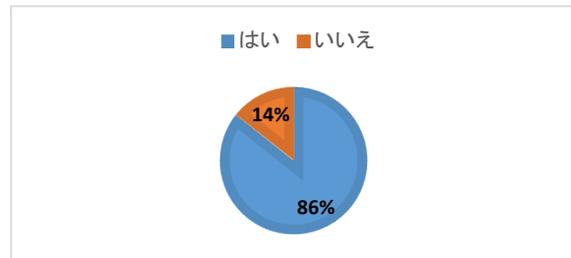


病院の入退院支援における新型コロナウイルス感染症に関連するアンケート結果

1 業務に必要な感染防護具が不足している

はい いいえ

回答 6 1

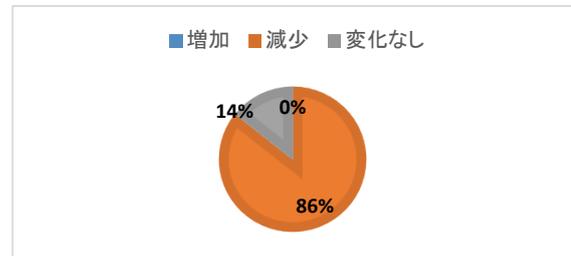


不足物品		×	
マスク		×	4
N957マスク		×	3
消毒薬		×	2
ガウン・エプロン		×	6
手袋		×	2
体温計		×	1
フェイスガード・アイシールド・キャップ		×	3

2 新型コロナウイルス感染症関連で入退院支援回数に全体的に変化があった

増加 減少 変化なし

回答 0 6 1



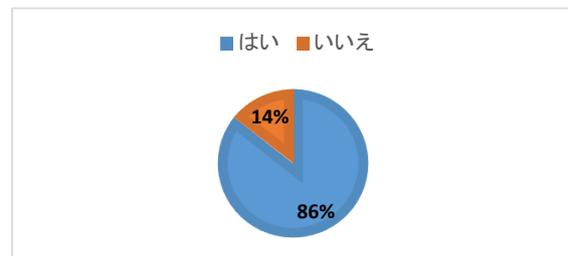
3 2の設問で増加、もしくは減少した理由

- ・患者数が激減し対象患者も減少
- ・面会制限によりケアマネ・訪問看護の面会も禁止となった
- ・自粛ムードが広がるなか、感染への不安などから受診を控える患者が増え、緊急性が低い診療科については特に外来・入院患者とも減少した。
- ・入院患者の減少
- ・入館制限

4 新型コロナウイルス感染症関連で入退院支援が困難なケースがあった

はい いいえ

回答 6 1



5 4の設問で入退院支援が困難だった理由

- ・本来であれば退院前カンファレンスを実施すべき対象患者を退院させ、自宅での在宅チームとのカンファレンスとなるケースがあった。高齢の為、病院側の説明が在宅側に十分伝わらず迷惑をかけてしまった。
- ・施設への入所や在宅での通所サービスなどの受入れストップに伴い退院調整に苦慮した。転院先での面会制限状況（特に緩和ケア病床）が転院調整に影響があった。また、転院に関しても何週間分もの熱型表などの情報提供を求められたり、転院日が決っていても1日でも微熱が出たりすると再調整が必要になった。
- ・在宅サービスの利用が必要であっても感染への不安などから利用を拒む家族もあり、

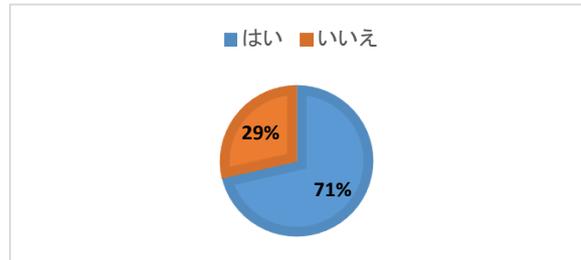
在宅ではなく方針変更が必要なケースもあった。

- ・施設入所やショートステイ利用に制限があり大変困った。各病院面会制限（禁止）や熱発の状態での受け入れの状況が変化することが多く困りました。
- ・府外調整で転院先病院、施設より終息するまで受けたくないと言われた。
- ・居宅へ退院調整するのに、コロナが流行っている理由で家族より入院延長を求められた。
- ・施設へ調整するとき、施設より症状ないのにPCR検査を求められた。
- ・家族とのICするのに来院を拒否された。電話調整に変えると、そんな大事なことを電話で済ませるのかとも言われた。退院カンファレンスの開催が緊急事態宣言中開くことができなかった。
- ・退院先として老人保健施設など施設の受け入れができなかった

6 近隣の地域連携室との情報共有・連携をしている

はい いいえ

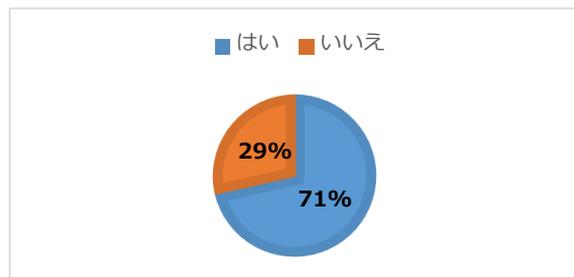
回答 5 2



7 行政・多職種と情報共有・連携している

はい いいえ

回答 5 2



8 新型コロナウイルス感染症関連で行政及び多職種連携に関する要望および自分（たち）が協力できると思われることについてご意見をお書きください。

- ・病院ではオンラインシステムが構築されていないため、リモート会議等ができない。
当面はMSW・退院支援看護師との電話での連携を継続するしかない状況です。どんどんIT化を進めていかないと、退院支援加算は取れない状況が続くと思います。
- ・感染治療後でPCR陰性となった患者をスムーズに受け入れて頂けるように、病院（療養病床・地域包括ケア病床・回復期リハビリテーション病床）施設・開業医・在宅サービス事業所とのネットワークの構築が必要だと思います。
- ・どのような感染防止対策をとっているかの問い合わせがあったり、感染防護具がないとの声が多く聞かれた。
- ・第2波に備えそれぞれが対策を講じるだけで精一杯かもしれないが、地域で患者をどう支えるか情報交換や感染防止対策の教育が必要だと思います。
- ・入院フォローアップ（大阪府）の強化
- ・感染指定病院ではないため対応困難である
- ・保健所、区役所への電話が繋がらない。（病院に対しても繋がらないと察しますが）
- ・当院は特に高齢者およびリウマチ疾患が多いため新型コロナウイルス感染症の患者様は診られません。それ以外については積極的に受けます。